



山岡 勇太

(1) はじめに

自然の博物館では、令和4年7月2日から10月16日までの間、企画展「奥秩父の自然」を開催しています。

奥秩父は、東京都・埼玉県・山梨県・長野県・群馬県の1都4県にまたがる山岳地であり、関東山地の中央に位置しています。中心部には、日本百名山の甲武信ヶ岳(2475m)や雲取山(2017m)など、標高2000m級の山々が連なります。また、荒川や千曲川(信濃川)、笛吹川(富士川)、多摩川といった、主要河川の水源としても知られています。

奥秩父の中でも、埼玉県側は特に谷が深く、急峻な地形が特徴的です。そのため、人の手が入りにくく未だ手つかずの自然が多く残されています。まさに、「埼玉の秘境」と呼ぶにふさわしい場所です。

本企画展では奥秩父の魅力、様々な切り口からご紹介いたします。

(2) 奥秩父の地形・地質

雄大な山々や峡谷が広がる奥秩父。こうした険しい地形が生まれた背景には、奥秩父の土台となっている地質が深く関わっています。

奥秩父の一带は、今から約1億年以上前の中生代に、プレートの運動によって大陸の縁に押し付けられた海の地層や岩石からできています。これらは「付加体」と呼ばれています。付加体には、かつて海底に堆積した泥岩や砂岩だけでなく、石灰岩やチャートなどの硬い岩石が取り込まれています。これらの岩石が長い年月をかけて侵食されることで、奥秩父の険しい地形がつけられました。

奥秩父には様々な山がありますが、その形は、

それらを形づくる岩石の性質に左右されます。例えば、チャートはたいへん硬い岩石です。そのため、周囲の砂岩や泥岩よりも侵食に強く、鋭い峰となって地形に現れます。奥秩父では、両神山がその代表的な例です。また、石灰岩も侵食に強く、武甲山のように独立峰となることがあります。

約600万年前には、地下深くから上昇したマグマが付加体中の石灰岩と激しく反応することで、大規模な金属鉱床がつけられました。秩父鉱山では、昭和30～40年代にかけて採掘の最盛期を迎えました。当時は約2000人もの人々が、奥秩父の鉱山町に暮らしていたと記録されています。

また、石灰岩の中には、水による侵食により鍾乳洞が発達することがあります。奥秩父鍾乳洞は、関東地方最大級の鍾乳洞で、長さが約2700m以上、高低差が160mあります。2014年に行われた洞内の調査によって、ヒグマの化石が見つかり話題となりました。

(3) 奥秩父の植物

2000m以上の標高差がある埼玉県では、平野から亜高山まで、標高によって多様な植生帯を見ることができます。このうち奥秩父では、中間温帯(山地下部)から亜寒帯(亜高山)までの植生

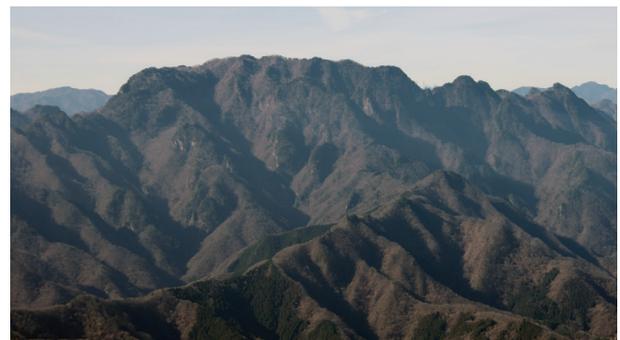


写真1 ノコギリ状の峰が特徴的な両神山

を観察することができます。

標高 250～670 m の中間温帯では、コナラやク
リなどの落葉広葉樹林や、モミヤツガなどの常緑
針葉樹林などが中心であり、標高 670～1600 m
の冷温帯には、ミズナラやブナなどの落葉広葉樹
林が分布しています。また、奥秩父の落葉広葉樹
林には、フクジュソウやセツブンソウなど、早春
の光を利用していち早く開花・繁殖する春植物の
自生地が数多くあります。

一方で、標高 1600 m 以上の亜寒帯には、コメ
ツガやシラビソ、オオシラビソといった常緑針葉
樹の原生林が広がっています。お花畑やハイマツ
林は発達せず、いわゆる「森林限界」はありませ
んが、稜線鞍部の風衝地には、低木林やミヤコザ
サの草原といった開放的な景色が広がります。甲
武信ヶ岳や十文字峠周辺の林内では、スギゴケの
仲間やイワダレゴケなどのコケ植物が絨毯のよう
に広がり、深山幽谷と呼ぶにふさわしい光景が広
がっています。



写真2 荒川源流付近の林床に広がるコケの絨毯

(4) 奥秩父の動物

埼玉県は、面積が国土の約1%と狭いにも関わ
らず、多様な動物が生息する生物相の豊かな地域
です。これは、埼玉県が日本列島のほぼ中央に位
置し、平野から亜高山まで大きな標高差があるこ
と、複雑な地形・地質をもつことなどが理由とし
て挙げられます。中でも奥秩父には、山地から亜
高山までの起伏に富んだ地形や、石灰岩地といっ
た特殊な環境があることから、県内でも動物の多
様性が高い地域となっています。

例えば哺乳類では、国指定特別天然記念物のニ
ホンカモシカや、ツキノワグマなどの大型哺乳類
をはじめ、国指定天然記念物のヤマネなど、希少
な小型哺乳類も生息しています。鳥類では、亜高



写真3 奥秩父で見られる動物の剥製（企画展示室）

山に生息するホシガラスやイワヒバリなど、平野
部では観察できない種が見られます。

一方貝類では、石灰岩地を好むヤグラギセルや
チチブギセルなどの、国内でも分布の限られた種
類が生息しています。

(5) 奥秩父の風景

本企画展の最後には、奥秩父の風景写真や大迫
力のイラスト鳥瞰図を展示しています。イラスト
は、縦2m×横3mの大きさと、秩父盆地の上空
から西側を見た視点で描かれています。山々の稜
線や谷筋の形はもちろん、道路や建物など、細部
に至るまで描き込まれています。また、紅葉など
の季節の見どころや秩父札所なども描かれており、
奥秩父の魅力を文字通り「一望」できる作品となっ
ています。

なお、本企画展の開催に合わせて、この鳥瞰図
を印刷したクリアファイルを販売しています。



写真4 奥秩父の写真とイラスト鳥瞰図（企画展示室）

(6) おわりに

本企画展では、本稿で紹介しきれなかった資料
も多数展示してします。ぜひこの機会に、奥秩父
の自然を当館の企画展示室にて体感いただければ
幸いです。

(やまおか ゆうた・学芸員)